

「二体改革」って一体何だろう

三木義一／青山学院大学教授

税と保険料

も無 入院費・治療費
も無 単位の難病手術料
の教 学校から大学まで
… 無料。

ある 夢のような国が
クのか？ デンマー
ケン 状態を描いている
「な」 ハイハン・スズキ
国を マークは幸福な
か」とに成功したの
る(と 版)を読んでい
でき このような国に
恨み た官僚や政治家を
ります。

デンマークのこうした生活は財政問題抜きには不可能です。OECD 18カ国の税収構

造を見てみると、GDP比での税負担率では、デンマークがダントツに高くトップ、日本がダントツに低く最低。社会保険料を含めてもこの地位は変化ありません。

デンマークは保険料が少なく、ほとんどが税金で負担する仕組みで、日本は保険料が相対的にかなり高いのですが、税が低すぎるため総合するとやはり最下位です。

このことは、税と保険料は

実はそれほど大きな差はない、ということを物語っているように思います。

「いや、この二つは違う。なぜなら、税金は権力的にとられちゃうだけで、税を払っても何ももらえないが、保険料はその支払いによって保険給付を受けられるようになるので、給付の対価だからだ」

そう反論する方もいるかもしれませんが、そうした税の理解は王様がいた時代の発想ではないでしょうか？ 税金は王様が自分自身および統治のために使うのですから、負

担者には確かにほとんど還元されません。ですから、一方的です。

でも、今の社会は、民主主義社会で、主権者が納税者自身ですから、税金をきちんと福祉に使うのであれば、保険料も税もその機能は相対的な違いにすぎなくなります。

日本でも、国民健康保険のために、多くの自治体が国民健康保険税を徴収しているのをご存じですか。実は、自治体は保険税として徴収しても良いし、保険料として徴収しても良いのです。保険料として徴収していたら、滞納が増えていったために、税として徴収することができるようになったのですが、そうしたら滞納が減ったために、多くの自治体が「税」として徴収し

ているのです。ですから、税も保険料も一緒に徴収していくことも考えられます。

民主党政権の「歳入庁構想」というのはその方向を示しているのでしょうか。さらに、いま議論されている給付付き税額控除が所得税制に導入されると、税と保険料とはほとんど差がなくなるのではないかと思えてきます。

なぜかという、いま検討されている構想は次のような考え方だからです。

消費税は低所得者の負担が相対的に重くなりますから、その分を所得税で調整し、所得税に給付付き消費税額控除を導入します。

仮にこの税額を20万円としますと、普通の所得者は税額が20万円安くなりますが、税

額が20万円以下の人はその差額分を還付してもらえらることになります。仮に所得税額が5万円の人は15万円還付されるのですが、保険料を滞納していればそれに充当します。その結果、保険給付を受けられることになります。

どう考える 負担と福祉

こうなると、税と保険料は違うと言えるのでしょうか。低所得者の場合には、税はもはや一方的に徴収されるものではなく、かえって給付されるものであり、その税額が保険料の代わりになり、保険給付も受けられるようになるのです。実質的に、保険料を払

わなくても、保険給付を受けられる体制になるのです。

ですから、税金も保険料も

国民がお互いを支えるために出し合うものと考えた方が良いのかもしれない。

ところが税金は、相変わらず一方的に取られるものと思われていますから、マスコミは増税という敏感に報道し、それが税率引き上げを困難にし、保険料増額となるとあまり具体的に報道されません

のでした。その結果、税金は一番軽い国になっているのかもしれない。

私たちは日本という国をどうしていったらいいのでしょうか。

高い高いと思っていたら、実は世界で最も税金の低い国になっている。それでみんなが幸せかというと、富裕者は別として、庶民は税金以外の様々な負担に悲鳴をあげてい

る。労働時間は長く、余暇も家族での生活もほとんどない。

だから、税金を上げて、社会福祉を充実するための「一体改革」は必要なのかもしれませんが、本来に官僚や政治家が、従来の姿勢を根本的に変えようとしているのかも不安です。

なお、いうまでもなく、デ・ンマークも昔からこのような政策を実施していたわけではありません。1840年頃には国債がふくらみ、貧困者同士の結婚を禁止するようなことをしたこともあるようです。その後の政治の中で、政治家・官僚・国民が今のシステムを築いたわけです。

私たちも高福祉と高負担の関係を真剣に検討した方が良いかもありません。